

# 福生市の人口移動

— 昭和58年度を町会別にみる —

川鍋幸三郎

はじめに

昭和二〇年の敗戦以後を担当する現代では、市勢の動きをつかむ基礎的データとして人口推移を手はじめに調べることにした。

昭和三五年発行の『福生町誌』に、明治三五年以降の戸数と人口数が載っているが、町全体としてとらえたもので町会別の動きを調べたものは載っていない。

とくに、市内町会別の人口動態をつかみたいと考え、資料の入手に努めたが、古い資料は全くない。

そこで、保管されている書類を手がかりとして昭和五八年度の人口移動を調べた。これより古い資料は保管されていないので、単年度だけであるが仕方がない。

福生市の人口移動の概略

昭和五八年度（昭和五八年四月～五九年三月）、一年間の福生市の人口移動は、転出三三三九人（男一七五〇・女一六二九）、転入が三七四〇人（男一九六七・女一七七三）で、差引三六一人の社会増である。

他に市内間の移動が一二九一人（男六三七・女六五四）ある。この両者を合わせると四六七〇人で、全人口の約九％にあたり、市民一人に一人が移動している割合になる。

ここでは、市内間での移動は除き、福生市と市外他地域間での人口移動の状況をみることにする。

(1) 転出

(ア) 町会別では本八町会が最高

転出者三三七九人のうち、五〇三人が本八町会からであり、全体の一五%を占め断然トップである。以下、第二位は武蔵野町会の三一九人、本七町会の二七二人、加美平住

宅の二三二人と続き、最低は中央・加美一両町会の一名である。(表1)

表 1  
町会別転出数 (昭和 58 年度)

町 会 名	男	女	計
本 武 蔵 野	277	226	503
本 加 美 平 住 宅	175	144	319
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	147	125	272
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	120	112	232
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	115	108	223
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	97	84	181
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	90	85	175
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	94	78	172
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	64	83	147
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	2	64	131
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	2	67	131
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	63	57	120
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	2	60	119
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	1	44	93
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	41	44	85
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	2	37	77
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	37	40	77
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	37	30	67
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	1	31	61
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	1	30	60
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	6	28	58
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	18	34	52
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	31	17	48
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	17	17	34
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	16	16	32
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	14	17	31
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	9	9	18
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	1	9	14
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	2	6	13
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	7	4	11
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	4	7	11
鍋 熊 原 福 鍋 牛 熊 川 住 宅	3	18	21
計	1750	1629	3379

(イ) 転出先では「都下市町村」がトップ

つぎに転出者の転出先をみよう。総数三三七九人のうち二一九人が福生市以外の都下市町村へ移動し、九〇七人が他府県へ、二三二人が都区内へ移っている。他府県への数よりも都区内へが少ないことが注目される。

なお、外国へは男二三人、女二五人の計四八人が移動しており、基地の街の顔をのぞかせている。(図1)

(ウ) 月別では三月

つぎに、月別の転出数を調べてみると、三月が五八二人で年間の一七%占め、続いて一二月の四八二人、五月の四

四〇人。最低は一月の二六三人である(図2)

(2) 転 入

(ア) 町会別ではやはり本八町会が最高

福生市内に他地域から転入してきた人数三七四〇のうち、本八町会へ転入した人数が最高で五四五人、以下武蔵野町会四一人、本七町会三三四人と続き、最低は本一町会・本三町会の五人である。これを転出の場合と較べてみると、大きな違いはみられない。(表2)

(イ) 都下市町村からの転入が六〇%

転入者の前住地をみると、都下の市町村からが六〇%で

図1 転出先の内訳（昭和58年度）

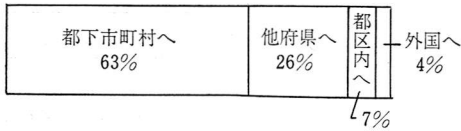


図2 転出者の月別内訳（昭和58年度）

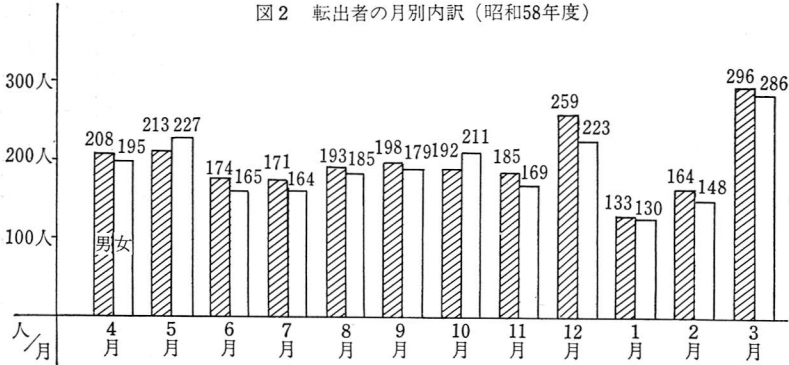


図3 転入者の前住地（昭和58年度）

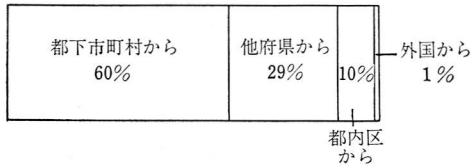


図4 転入者の月別内訳（昭和58年度）

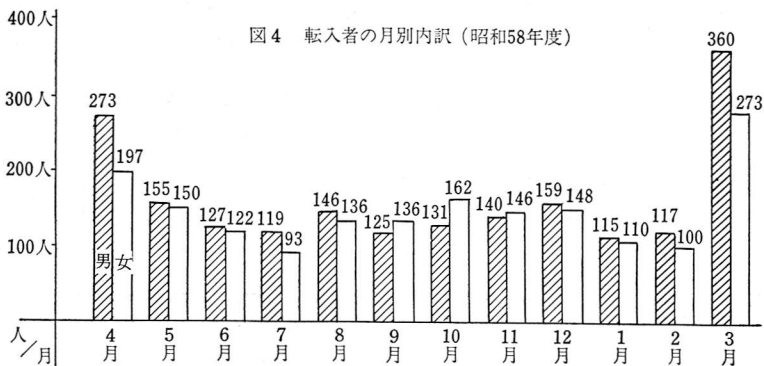


表 2  
町会別転入数 (昭和 58 年度)

町 会 名	男	女	計
本 武 蔵 野	296	249	545
本 鍋 熊	244	167	411
原 鍋 熊	169	165	334
ケ 谷 戸	7	151	158
福 生 団 地	1	122	123
牛 牛 志 加 志 加 美 平 住 宅 南	2	117	119
出 宅	83	101	184
川 住 宅	91	76	167
本 長 玉 永 福 長 本 加 富 中 本 本 横	2	77	79
田 米 沢 美 見 台 央 地	1	65	66
1 2 2 1 3	2	63	65
1 2 1 1 3	2	54	56
1 2 1 1 3	1	56	57
1 2 1 1 3	58	49	107
1 2 1 1 3	50	44	94
1 2 1 1 3	52	36	88
1 2 1 1 3	38	41	79
1 2 1 1 3	30	26	56
1 2 1 1 3	21	35	56
1 2 1 1 3	28	25	53
1 2 1 1 3	24	14	38
1 2 1 1 3	19	12	31
1 2 1 1 3	14	10	24
1 2 1 1 3	11	6	17
1 2 1 1 3	8	8	16
1 2 1 1 3	5	4	9
1 2 1 1 3	5	2	7
1 2 1 1 3	2	3	5
1 2 1 1 3	1	4	5
1 2 1 1 3	8	9	17
計	1967	1773	3740

断然多く、以下他府県二九%、都区内一〇%であり、外国からというのも一%ある。これを転出の場合と較べても、ほとんど同じ傾向にあるといえる。(図3)

(ウ) 月別ではやはり三月つぎに、月別に転入者の内訳をみると、三月が最高で六三三人、続いて四月が四七〇人であり、この二か月だけで年間の約二〇%を占めている。最低は七月の二二人である。(図4)

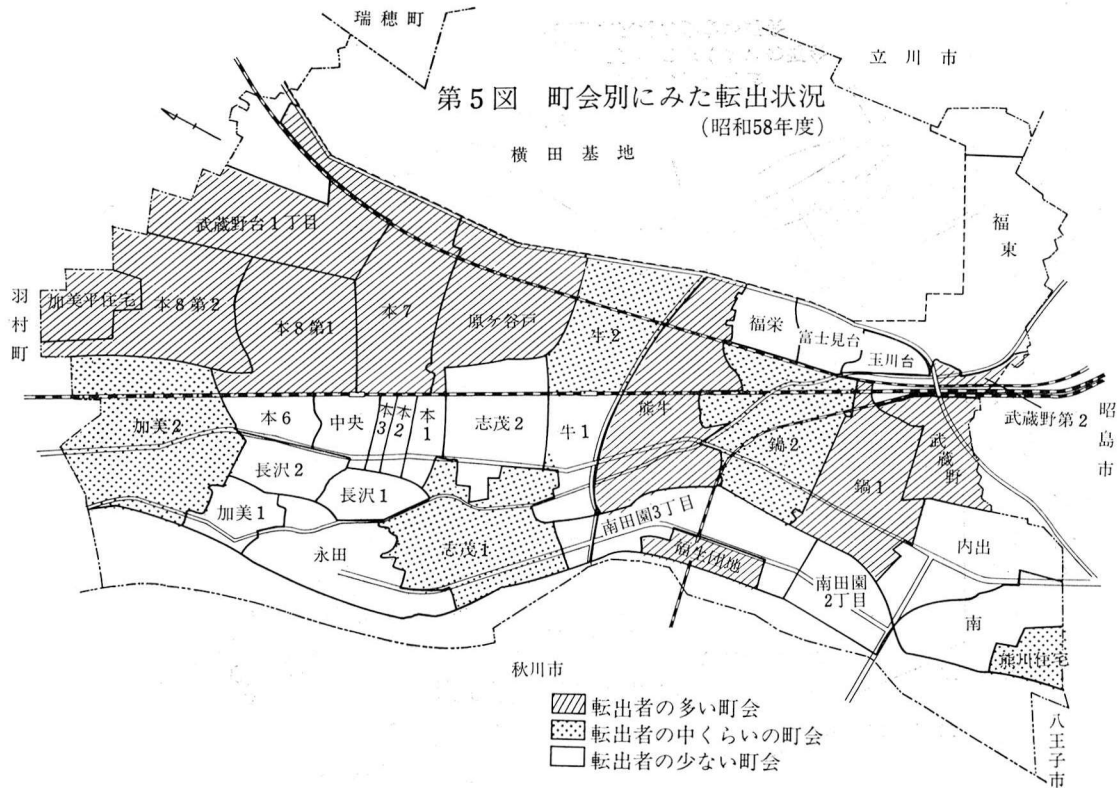
### 今後の調査の方向

前述のように、過去の資料が入らないので、ここには七八年度の分析結果だけを載せた。本来ならば、長期間の市内各町会の人口推移や移動の状況を調べたいところである。

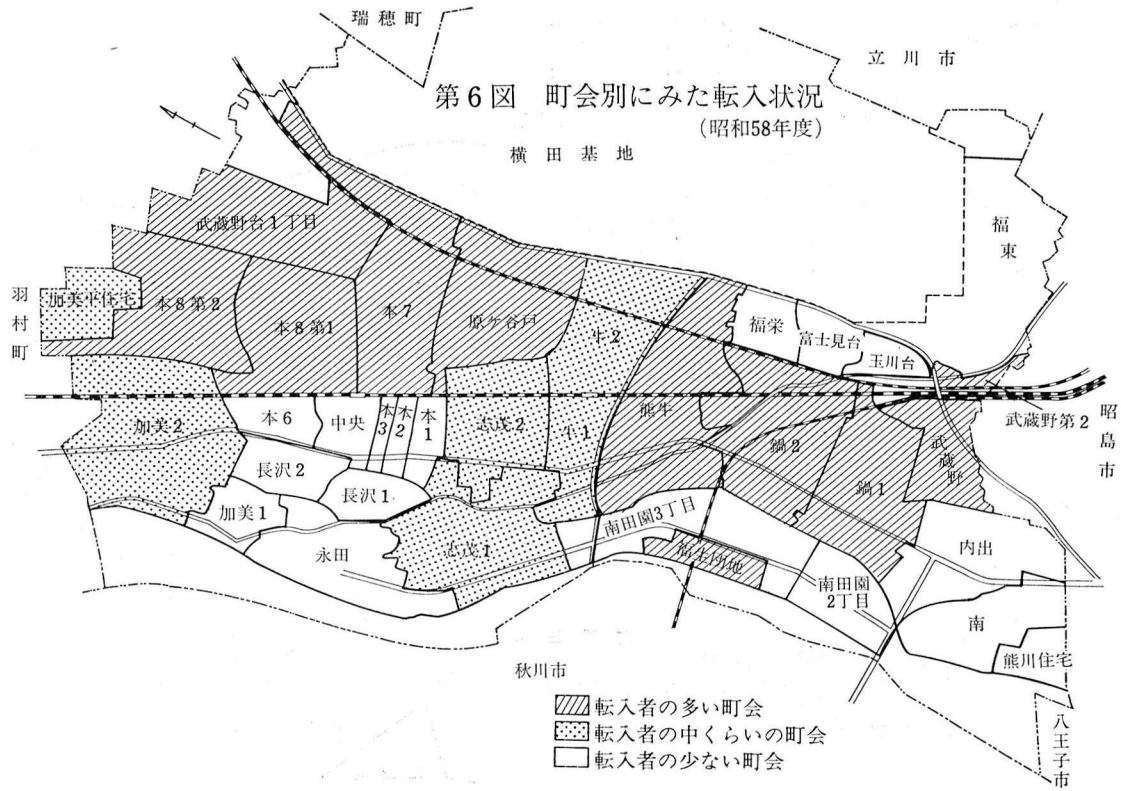
しかし、それは無理そうなので、資料の保存期間が切れ、処分されないうちに数量化するよう心がけたいと考える。とはいえ、一年間の資料を整理するのは大変な作業で、ここに掲載した図表を作成するのに一人で一か月ぐらいの時間が必要である。

つぎに現在調査をしているものに、土地の転用状態がある。これも、町会別に、年次別に統計を出すよう努めている。これにより、市内の地域別にみた住宅地化の動きを追ってみようというのである。

さらに、商店や工場の分布状況も数量化してみたい。過去のそれらの資料は、とくに町会別のはほとんどない状態である。したがって過去との対比は難しいそうであるが、将来へ発展していく福生市の、現在における町会別の



第6図 町会別にみた転入状況  
(昭和58年度)



- ▨ 転入者の多い町会
- ▤ 転入者の中くらいの町会
- 転入者の少ない町会

